

## 令和 6 年度 学校総合評価

### ◆今年度の重点目標に対する総合評価

今年度も『大門高校グランドデザイン』の育てたい力：自ら学ぶ力・深く考える力・創造する力・主体的に行動する力・人間関係を形成する力・地域に貢献する力を、あらゆる教育活動の中で培うことを目標とし、学校全体で教育活動の充実に取り組んだ。

学習活動の領域では、重点課題を「学習習慣の定着」とし、自分で設定した学習目標をクリアできる生徒・学習の深まりを実感できる生徒の育成を目指した。前者は達成目標を上回ったが、後者は下回る結果であった。

学校生活の領域では、重点課題を「主体的な服装選択と学校行事及び委員会活動の活性化」とした。主体的に制服を選択できている生徒の割合は達成目標を上回り、学校行事や委員会活動に積極的に参加している生徒の割合は目標をほぼ達成した。後者については学園祭の成功とも関連していると思われる。

進路支援の領域では、重点課題を「進路意識の向上と進路目標の確立及び実現」とした。2年次志望校決定率は92.3%と高く、キャリア教育を充実させた結果と思われるが、1年次志望分野決定率は33.6%と低く、生徒の迷っている現状が明らかになった。3年生には、学年団を中心に親身な進路指導を行い、全校体制で共通理解を図りながら受験指導にあたった。国公立大学前期試験合格発表時における志望進路決定者は85%であった。

特別活動の領域では、「部活動の活性化と地域活動や校外活動の推進」を重点課題とした。部活動を通して自己の成長を感じた生徒の割合は高く、生徒アンケートから企画した合同部活動も一因になっていると思われる。地域活動や校外活動に参加した生徒の割合は49.2%と低い数値にとどまった。例年行っている大門駅周辺清掃活動の前に調査を実施したことが低さの要因だと分析している。

情報教育の領域においては、「情報発信能力の育成と教員のICT活用能力の向上」を重点課題に掲げた。生徒が複数回の情報発信を行って情報活用スキルを向上させたのに対し、教職員のICT機器の効果的な活用については改善の余地を残した。

以上、総合的に見て、今年度の重点目標を「ほぼ達成した」と評価する。

### ◆次年度へ向けての課題と方策

次年度は、今年度達成できなかった項目：生徒の学習の深まりの実感と教員のICT活用能力の向上をはじめとし、各領域の達成目標・方策について見直しを図り、教育活動を改善・充実させる。また、本校は、今年度、DXハイスクールに採択され、「情報の大門」として新しい段階に進み、次年度は、整備したICT環境を活かして実践内容の充実が求められることから、情報を核とした教育活動の展開も課題である。

『グランドデザイン』にある「自ら高い目標を持ち、意欲的に学習し、主体的に行動できる生徒を育てる」べく、計画的なキャリア教育の提供、学習指導方法の工夫、部活動・学校行事の活性化、校外活動の推進を行う。全校体制で教育活動や安心安全な学校づくりにあたることに加え、生徒の声、地域や学校関係者の声を反映した高校を目指す。